



(平成29年度(第56回)吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表)妊娠糖尿病における分娩後耐糖能異常のリスク因子の検討

著者名	柳澤 慶香
雑誌名	東京女子医科大学雑誌
巻	88
号	2
ページ	68-68
発行年	2018-04-25
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032047

**第34回吉岡弥生記念講演会
(第358回東京女子医科大学学会例会)**

日 時：平成30年5月22日（火）13：25～16：00

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：本会会員，本学学生・教職員，一般

挨 拶

(司会) 幹事 尾崎 眞
会長 吉岡俊正

平成30年度（第57回）吉岡弥生研究奨励賞授与式 13：30～13：40

選考経過報告

理事長・学長 吉岡俊正

トランスジェニックマウスとiPS細胞を用いた

コネキシン45変異による家族性不整脈症候群の病態解明

循環器内科学 助教 西井明子

平成29年度（第56回）吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表 13：40～14：00

妊娠糖尿病における分娩後耐糖能異常のリスク因子の検討

(座長) 副会長 清水京子
内科学（第三）柳澤慶香

第34回吉岡弥生記念講演 14：15～16：00

挨 拶

理事長・学長 吉岡俊正
(座長) 会長 吉岡俊正

弥生先生を語る

本学名誉教授，昭和31年卒業生 橋本葉子先生

つなぐ 拡げる

ピアニスト 松下佳代子氏

妊娠糖尿病における分娩後耐糖能異常のリスク因子の検討

(内科学（第三）)

柳澤慶香

妊娠糖尿病（GDM）は妊娠中にはじめて発見または発症した糖尿病に至っていない糖代謝異常であり，妊娠中の75g糖負荷試験（OGTT）で空腹時血糖値92mg/dL以上，1時間値180mg/dL以上，2時間値153mg/dL以上のうち1ポイント以上を満たした場合に診断される．GDMは周産期合併症を増加させるだけでなく，将来の2型糖尿病発症頻度が高いため分娩後のフォローアップが重要である．GDM女性の分娩後の糖代謝異常に関連する因子を明らかにすることは，そのフォローアップに役立つと考えられる．そこで，我々はGDM患者の分娩1～3か月後に施行したOGTTでの耐糖能異常に関連する臨床的因子を明らかにすることを目的とし検討を行った．

対象は東医療センターで管理したGDM患者で，妊娠20週未満に診断された30名（B20w群），妊娠20週以降に診断された118名（A20w群）である．分娩後平均58.0±13.3日にOGTTを施行し，その結果と母体臨床因子，分娩結果との関連をみた．

分娩後OGTTの結果，B20w群では9名（30%），A20w群では35名（30%）に耐糖能異常を認めた．B20w群ではGDM診断のために施行したOGTTの異常ポイント数が多いことが，A20w群ではGDM診断時に測定した血糖コントロール指標の一つであるグリコアルブミン高値が分娩後耐糖能異常の独立したリスク因子であった．

これらのリスク因子を持つ症例には特に注意し，出産後のフォローアップを行い，2型糖尿病の早期発見に努める必要がある．